

## シンポジウム 1

### 「IBD 診療におけるカプセル内視鏡の役割」

司会 江崎 幹宏（佐賀大学医学部内科学講座消化器内科）

細江 直樹（慶應義塾大学医学部内視鏡センター）

カプセル内視鏡は、病変の性状、分布を低侵襲に観察することができ、IBD の診断、モニタリングに適した modality である。クローン病のみならず、潰瘍性大腸炎、診断に苦慮する inflammatory bowel disease unclassified (IBDU) など使用対象、目的は様々である。今回、小腸、大腸カプセル内視鏡、パテンシーカプセルに関する演題を少数例の報告も含め広く公募する。